

貴重資料の機関リポジトリ公開時における

メタデータ基準についての一研究

木越 みち

はじめに

電子化された貴重資料をインターネット上で公開する際、その二次情報として不可欠となるメタデータ（目録）には、いかなる項目が必要とされるのであろうか。

筆者が勤務する山口大学では、平成 18 年度より「山口大学所蔵学術資産継承事業」として、大学が所蔵している学術資産（博物・美術資料、貴重書等）についてのリスト化・保存（電子化を含む）のプロジェクトを行っている。平成 18 年度の活動において学術資産のリスト化が既に終了し、山口大学図書館所蔵資料のうち、近世地方文書や和漢書など 20 のコレクションが学術資産としてリストアップされた。これら図書館所蔵の学術資産は、長期保存および学内外からの幅広い利用を目的としてその一部が既に電子化され、今後も順次電子化が予定されている。山口大学図書館ではこれらの電子化資料をインターネット上で公開するにあたり、各資料についての書誌情報であるメタデータをどう作成するかが緊急の課題となっている。しかしながら、全国的に見ても電子化された貴重資料を登録するにあたっての統一されたメタデータ基準が存在していないのが現状である。

本稿はこうした事情を踏まえ、現在、機関リポジトリでも採用され、今や電子コンテンツのメタデータの世界標準として広がりを見せている Dublin Core¹⁾に準拠する形で上記の問題についての検討を行うものである。

1. 貴重資料公開ポータルとしての機関リポジトリの可能性

貴重資料のメタデータ項目についての検討を行う本稿として、まずは公開ポータルとしてどのようなものが適当かの検討を行いたい。

電子化された貴重資料をインターネット上で公開する方法としては、これまでコレクション単位や図書館単位で専用の Web ページを作成することが主流であったと思われる。しかしながらこの方法では、コレクションの種類毎に表示する書誌項目に相違があったり、コレクション間や図書館間を横断した形での検索ができなかったりと、効果的な発信という側面からは課題を残すものであった。

今後、貴重資料の電子データを効果的に発信していくためのポータルとして、筆者は機関リポジトリが適当ではないかと考える。機関リポジトリとは、「自機関の学術成果を電子的に保存しインターネット上で公開する」という主旨のもと大学などの研究機関が構築を

進めているインターネット上の保存書庫のことで、今のところ自機関に所属する研究者の学術論文等の研究成果がコンテンツの中心となっている。国内では平成 17 年度から国立情報学研究所（以下「NII」）が「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」としてリポジトリ構築事業の支援を開始し、平成 20 年 5 月現在、既に 70 以上の大学が機関リポジトリを公開している²⁾。大学の情報発信力が求められる昨今の社会的状況からも、今後機関リポジトリの数は増えていくと期待される。

今回検討の対象としている貴重資料の電子データも各機関の学術的生産物に他ならない。大学の学術資産という位置付けで他のコンテンツと共に機関リポジトリ上で公開することにより、公開ポータルを一元化できるというメリットがある。

また、機関リポジトリのメタデータが準拠している Dublin Core Metadata Element Set（以下「DC」）という国際基準は、そのシンプルな構造から汎用性が高く、今や電子コンテンツのメタデータ記述における標準規格となりつつある。日本では、NII が機関リポジトリのメタデータ基準として DC に準拠した JuNii 2 フォーマット³⁾を定めている。また国立国会図書館も、電子資源のポータルである「国立国会図書館デジタルアーカイブポータル」(PORTA)のメタデータ基準として、DC に準拠した「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述要素 (DC-NDL)」を定めている⁴⁾。

DC で記述されたメタデータは、OAI-PMH (Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting) というメタデータ流通のための標準プロトコルによって、DC に準拠したシステム間や機関間でのデータの授受が可能になる。すなわち、メタデータは作成機関のサーバーに蓄積されるだけでなく、データ交換を行うことで複数ポータルからの検索が可能となり、そのことがメタデータをネットワーク上で効果的に発信することにつながるのである。リポジトリメタデータの集約ポータルとしては現在、NII が提供している国内リポジトリ統合検索サイト「JuNii+」、国立国会図書館が運用している PORTA、Michigan 大学の OAI-Ster などがある。

2. 機関リポジトリにおける貴重資料のメタデータ記述の不安定性

実際、機関リポジトリを構築している大学図書館のうち複数の機関が既に貴重資料の電子データを機関リポジトリ上で公開している。しかし、まだまだ機関リポジトリの中での貴重資料の位置付けについては不確定で、大学によってメタデータの記述方法にもばらつきがある。これは、NII がリポジトリのメタデータを記述する際の基準としている JuNii2 フォーマットが、雑誌論文や紀要論文、会議発表資料など、主に研究成果物を登録することを前提として定められたフォーマットであることに起因している。JuNii2 フォーマットを貴重資料のメタデータ登録にそのまま利用するには、項目としてそぐわないものや不足しているものがあるので、貴重資料に関しては各大学がそれぞれ独自に入力方法を決めているようである⁵⁾。すなわち、貴重資料のメタデータについては、全国の大学図書館が共通して利用できるような入力フォーマットが未だ作成されていないのが現状である。

そこで以下では、貴重資料をリポジトリで公開する際にふさわしいメタデータ項目につ

いて具体的に検討していくことにする。なお、一口に貴重資料といっても、和古書、漢籍、古文書などその資料種別は多岐に渡る。そして、その資料種別毎に必要なメタデータ項目は異なってくる。そこで今回はメタデータ項目（特に書誌事項部分）についてのケーススタディとして、江戸期以前の和古書を対象とした。

3. 貴重資料のメタデータ項目の検討

まず、DC で規定される 15 の基本要素（「title」、「creator」、「subject」、「description」、「publisher」、「contributor」、「date」、「type」、「format」、「identifier」、「source」、「language」、「relation」、「coverage」、「rights」）を、その電子資料の書誌事項を表す項目、電子ファイルの特性を表す項目、リンク関係を表す項目の 3 つのカテゴリーに大別した（表 1）。これら 15 の各項目について、カテゴリー別にその内容を検討していきたい。

（表 1） DC15 要素のカテゴリー別分類

書誌事項	電子ファイル特性	リンク関係
Title	Contributor	Relation
Creator	Date()	
Subject	Format	
Description	Identifier	
Publisher	Rights	
Date()		
Type		
Source		
Language		
Coverage		

()Date は本来 1 項目だが、資料の書誌的な日付と電子ファイルの作成日との 2 つのカテゴリーに属するため、便宜的に 2 つに分けた。

なお、DC では基本の 15 要素の下位特性として、基本要素を更に細かく分類できるように各項目に精緻化要素を追加することができる。今回の試案では原則的に NII が規定した JuNii2 フォーマットの精緻化要素に依りつつ、貴重資料の特性をメタデータに反映できるように独自の精緻化要素も追加している。

検討を進めるにあたって、山口大学図書館棲息堂文庫所蔵『英草紙』に関するメタデータを各項目の具体例として挙げた。『英草紙』は、江戸時代の読本の祖とされており、当館所蔵分は現存唯一の初刷本として貴重なもので、前述の「学術資産継承事業」においても優先的に電子化されている。

4. 書誌事項

貴重資料の書誌事項は、学術論文などの他の機関リポジトリコンテンツとは性質が大きく異なるため、最も検討の必要がある部分である。

貴重資料の原本の目録基準に関しては、平成 14 年度に当時の学術情報センター（現国立情報学研究所）が『和漢古書に関する取り扱い及び解説』と『コーディングマニュアル（和漢古書に関する抜粋集）』を公表し⁶⁾、総合目録データベース（以下「Nacsis-CAT」）に登録する際の方針を示している。大学図書館の多くは、この Nacsis-CAT コーディングマニュアルに基づいて目録登録作業を行っていると思われるので、今回書誌事項の基準としては Nacsis-CAT にできるだけ準拠することを基本方針とした。

ただし原本書誌データとメタデータとの大きな違いとして、原本書誌データは原本の情報をできるだけ詳しく正確に反映させる必要があるのに対し、メタデータの場合は電子化された貴重資料を対象としていることから常に画像ファイルがリンクされており詳細はその画像ファイルで直接確認できる、という点が挙げられる。そのため試案では書誌事項に関して資料の検索および同定に必要な最低限の情報を記述することとし、簡潔を旨とした。

4-1. Title : 書名

各資料の書名を記述するフィールドである。記述の情報源の優先順位は『和漢古書に関する取り扱い及び解説』（以下『解説』）の「2.各書誌的事項の情報源」に則り、(1)巻頭、題簽、外題、(2)目首、自序、自跋、巻末（尾題も含む）、(3)奥付、奥書、見返し、扉、版心、小口書、著者・编者以外の序跋、識語等とする。

角書（書名の上の割書きなど）については、『解説』上では特に触れられていないが、例えば『国書総目録』では原則として省いた形を書名として採用しているように、書名とは切り離して扱われることが多いようである。そこで Title フィールドには入力せず、Title の下位特性として専用のフィールドを設けるのが適当と思われる。また、書名として採用しなかった別書名等で検索上必要があると思われるものについても、同じく専用のフィールドが必要であろう。

古典籍資料の特徴として、書誌同定の難しさが挙げられる。そのため『解説』では、「記述対象資料毎に書誌レコードを作成すること」とし、同一著作と思われる資料毎に書誌作成をするよう規定している。しかしながらこの方法では、書誌調整の煩わしさから解放されるというメリットはあるものの、各館が作成した書誌レコードを著作単位の書誌群として把握することは困難である。できれば各資料の書名以外に同一著作を一元的に検索できる統一書名があることが望ましい。この点、例えば国文学研究資料館の「マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録」では、各資料の「記載書名」とは別に『国書総目録』の書名を「統一書名」として専用フィールドを設けている。『国書総目録』は和古書の利用者に広く参照されている二次資料であるので、同一著作の統一書名として採用するのにふさわしいと思われる。そこで試案でも『国書総目録』の書名を「統一書名」として Title の下位特性に専用フィールドを設けることとした。

(例) Title (書名) : 英草紙

Title.Transcription (書名ヨミ) : ハナブサ ソウシ

Title.Alternative (角書 / 別書名) : 古今奇談

Title.Alternative.Transcription (角書 / 別書名ヨミ) : ココン キダン

Title.Alternative.Union (統一書名) : 英草紙

Title.Alternative.Union.Transcription (統一書名ヨミ) : ハナブサ ソウシ

4-2. Creator : 作成者

各資料の著者名を記述するフィールドである。記述の情報源の優先順位は書名と同じく (1) 巻頭、題簽、外題、(2) 目首、自序、自跋、巻末 (尾題も含む)、(3) 奥付、奥書、見返し、扉、版心、小口書、著者・編者以外の序跋、識語等とする。原本の著者名が一般通行のそれと異なる場合には、通行の名称についても記述できるよう下位特性として専用のフィールドを設けることとした。また、原本に著者名が記載されていない場合などでメタデータ入力者の推定による場合は [] (角括弧) を付して記述する。

(例) Creator (著者) : 近路行者

Creator.Transcription (著者ヨミ) : キンロ ギョウジャ

Creator.Alternative (著者名別表記) : 都賀庭鐘

Creator.Alternative.Transcription (著者名別表記ヨミ) : ツガ テイショウ

4-3. Subject : 主題

各資料の分類や件名を記述するフィールドである。JuNii2 フォーマットでは分類・件名の種類として「国立情報学研究所メタデータ主題語彙集」、「日本十進分類法」、「国立国会図書館分類表」、「日本件名標目」、「国立国会図書館件名標目表」、「医学件名標目表」、「デュイ十進分類法」、「米国議会図書館分類表」、「国際十進分類法」、「米国議会図書館件名標目表」を挙げている。試案では、この中から和古書に関連すると思われる「日本十進分類法」、「国立国会図書館分類表」、「日本件名標目」、「国立国会図書館件名標目表」を採用することとした。また和古書を検索する際により参照しやすい分類として、『国書総目録』上の分類⁷⁾を記述するフィールドを設けることとした。

(例) Subject.Union (『国書総目録』分類) : 読本

Subject.NDC (日本十進分類法) : 913.56

Subject.NDLC (国立国会図書館分類表) : KG239

Subject.BSH (日本件名標目) : 読本

Subject.NDLSH (国立国会図書館件名標目表) : 読本

4-4. Description : 内容記述

JuNii2 フォーマットでは、論文の抄録等、コンテンツの内容を記述するフィールドとして定義されている。試案ではコンテンツに関する特記事項等を記述する。解題などある場合もここに記述する。

(例) Description (特記事項) : 読本の初作。現存唯一の初刷本として貴重

4-5. Publisher : 出版者

各資料の出版者を記述するフィールドである。記述の情報源は『解説』の「2.各書誌的事項の情報源」に則り、「刊記、奥書、見返し、扉、序、跋、識語等」とする。ただし、和古書の場合出版者が複数に渡ることが多い。利用者が画像ファイルを直接閲覧できることを考えれば全ての出版者をメタデータ上に記述する必要はないと思われるが、検索対象としてはできるだけ記述する方が良いとも言える。どの優先順位で何件まで記述するのか判断が難しいところである。(例)では刊記に記載されていた出版者について、右側に記載されているものから順に記述した。

(例) Publisher (出版者) : 西村源六

Publisher (出版者) : 柏原屋清右衛門

Publisher (出版者) : 菊屋惣兵衛

4-6. Date : 日付

原本の出版に関わる日付を記述する。和古書の場合刊行年が特定できない資料が多いので、下位特性として「出版年」と「成立年」の2つのフィールドを設け、刊行年がはっきりと分かる刊本の場合は「出版年」にその日付を、写本や刊行年の判明しない刊本の場合は「成立年」にその日付を記述することとした。またより広範囲な検索に対応するため、原本に記載されている和暦の他、西暦でも記述することとした。

(例) Date.Issued (出版年) : 寛延 2 年

Date.Issued (出版年) : 1749

Date.Available (成立年) :

4-7. Type : 資源タイプ

コンテンツの内容の性質またはジャンルについて記述するフィールドである。このフィールドでジャンルを指定することにより、例えば貴重資料のコレクション単位など、ジャンル別にグループ化して機関リポジトリ上で表示させることが可能になる。試案では、貴重資料の属するコレクション名および「和古書」、「漢籍」、「古文書」など原本の資料種別についてそれぞれフィールドを設けた。

なお JuNii2 フォーマットでは、コンテンツの資料種別を「NII メタデータ主題語彙集 (資源タイプ)」⁸⁾として独自に規定し必須入力項目としている。他の学术论文等と同じように機関リポジトリ上で公開することを考えれば、この「NII メタデータ主題語彙集」フィールドも必要になるが、現在この語彙集で規定されている種別には「貴重資料」に該当するものがなく、強いて入力しようとする「その他」を選択することになる。「貴重資料」というジャンルで、検索、閲覧ができるよう専用語彙の追加が望まれる。

(例) Type.Collection (コレクション名) : 山口大学図書館棲息堂文庫

Type.Material (貴重資料種別) : 和古書

Type.NII (NII メタデータ主題語彙集) : 貴重資料 (現行では「その他」)

4-8. Source : 情報源

当該コンテンツの原情報を参照するためのフィールドである。試案では、このフィールドに原本の書誌詳細画面へのリンクを設けることとした。原本の所蔵に関する情報（登録番号や配架番号、所蔵場所など）は、電子データとは直接的には関わりがないものであるため、メタデータ内に専用の項目を設けず学内蔵書検索画面（OPAC）上の書誌詳細画面へのリンクで対応する方が適切だと思われるからである。

また他のフィールドへ入力するにはそぐわないと思われる原本の刊写の別、巻冊次、寸法、注記など資料の物理的特徴もこのフィールドへ記述することとした。

- (例) Source.LocalID (ローカル書誌リンク) : ローカル書誌詳細画面へのリンクを張った「書誌 ID」または「URL」を記述
Source.Type (刊写の別) : 刊
Source.Volume (巻冊次) : 5 巻 5 冊
Source.Physics (寸法) : 22.7 × 16.0 cm
Source.Note (注記) : 「徳山毛利家蔵書」の印有り

4-9. Language : 言語

コンテンツの使用言語について記述する。言語の表記法には様々な規格があるが、試案では DC 記述の際に一般的に利用されていると思われる「ISO639-2」を使用することとした。

- (例) Language.ISO639-2 (言語) : jpn

4-10. Coverage : 時空間的範囲

コンテンツの内容が特定の地域、時代に限定されている場合に、そのカバーする地理的範囲および時間的範囲について記述するためのフィールドである。学术论文においては、例えば地質学や考古学に関する論文などでこのフィールドが必要となると思われる。しかしながら対象が和古書の場合、その扱う内容が特定の地域、時代に限定されることは稀だと思われる。また名所図会のように特定の地域を扱った資料の場合でも、書名等からの検索が可能となるので、メタデータ項目として別個に記述する必要性は乏しい。試案では、この項目については記述しないこととした。

5. 電子ファイル特性

原本の書誌事項とは別に電子ファイルそのものについてその特性を表した項目である。学术论文などの他の機関リポジトリコンテンツと特に差異を設ける必要がないと思われるので、全て JuNii2 フォーマットの内容を踏襲した。

5-1. Contributor : 寄与者

コンテンツ作成に寄与、関与した個人、組織、団体等について記述する項目である。機

関りポジトリ上では、コンテンツの作成機関がこれに該当すると思われる。

(例) Contributor (寄与者) : 山口大学

Contributor.Transcription (寄与者ヨミ) : ヤマグチ ダイガク

5-2. Date : 日付

前出の「4-6.Date」では書誌的な日付を扱ったが、ここでは電子ファイルに関する日付を扱う。必要最低限の日付として電子ファイルの作成日と更新日が必要になると思われる。

(例) Date.Created (データ登録日) : 2008-05-31

Date.Modified (データ更新日) : 2008-05-31

5-3. Format : フォーマット

コンテンツのファイル形式について、「Internet Media Type」で規定される形式で記述する。

(例) Format.IMT (フォーマット) : image/jpeg

5-4. Identifier : 資源識別子

コンテンツを一意に特定するための識別子を記述するフィールドである。試案では当該メタデータ詳細表示画面への URL (URI) および電子ファイルへのリンク URL について記述することとした

(例) Identifier.URI (資源識別子 URI) : メタデータ詳細画面 URL

Identifier.Contents.URL (電子コンテンツリンク) : 電子ファイル URL

5-5. Rights : 権利管理

コンテンツ利用に際しての権利関係の事項について記述する。

(例) Rights (権利管理) : 当コンテンツの利用にあたっては「山口大学図書館所蔵資料デジタルアーカイブ使用等取扱要項」を遵守して下さい。

6. リンク関係

Relation : 関係

関連情報を参照するためのリンクを記述する。電子資料の特徴として、インターネット上で公開されているため相互リンクにより関連情報入手しやすい、という点が挙げられる。Relation はその特徴を最も生かせる項目だといえる。試案では、当該コンテンツの上位階層に叢書がある場合などにその階層関係リンクを設定できるようにした。また、コンテンツの属するコレクションについて専用の Web ページがある場合はリンクできるようなフィールドを設けた。

(例) Relation.IsPartOf (上位階層) :

Relation.HasPart (下位階層) :

Relation.Collection (コレクションリンク) : <http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp>

以上の上記 15項目についての検討の結果を(表2)「貴重資料メタデータ項目表(案)」にまとめた。

7. おわりに

以上、貴重資料の電子データを機関リポジトリで公開する際のメタデータ項目について検討してきた。今後、山口大学図書館では今回の検討の結果を反映させ電子化された貴重資料の公開を進めていきたい。しかし実際に公開し広く利用してもらうためには、まだいくつかの問題点が残されている。

公開方法という点から言えば、貴重資料の場合、機関リポジトリで主流の学术论文等とはコンテンツの性質が大きく違う。そこで、他のコンテンツと混在した形での公開方法はそぐわないと考えられる。自機関のリポジトリで公開する際や他のポータルサイトにハーベストされる際にも「貴重資料」というカテゴリーでの公開が必要となってくるのではないだろうか。そのためにも、例えばNIIのリポジトリ統合検索ポータルである「JuNii+」において、貴重資料専用の検索・閲覧ページが作成されることが望まれる。

また、データ入力面でも専門知識を持った担当者の確保・育成が課題となる。機関リポジトリのメタデータは主に図書館職員または外部業者への委託などによって作成されているが、貴重資料に関しては学术论文等のメタデータとは違い、かなりの専門知識が必要となる。図書館内で貴重資料の目録スキルを持った人材の育成を進めていくことはもちろんだが、場合によっては学内の研究者および大学院生等専門家の協力が必要であろう。図書館職員が、学内の研究者等とどのような連携が可能であるのか、その体制作りも課題の一つである。

今回は対象を和古書に限定して検討を行ったが、貴重資料には他にも漢籍や古文書など様々な資料が存在する。今後はそれらのメタデータ項目についても検討した上で、全ての貴重資料に対応した統一したメタデータ基準を作成する必要がある。山口大学図書館でも今後実際に公開作業を進める中で、和古書以外の貴重資料についても検討を重ねていきたい。

本稿では試案として和古書のメタデータ項目について検討を行ったが、本来は大学などの機関単位で個別にメタデータ項目を作成するのではなく、やはりNIIのような全国的な機関によって作成される必要があると思われる。学术论文におけるJuNii2フォーマットのように、全国の研究機関が準拠できるような貴重資料のメタデータ基準が作成され、前述したような公開ポータルができて初めて各大学図書館等で電子化が進められている貴重資料の効果的な発信・利用が可能となると考える。

(表2) 貴重資料メタデータ項目表(案)

DC基本要素	精緻化要素	項目名	内容
Title	Title	書名	
	Title.Transcription	書名ヨミ	
	Title.Alternative	別書名	角書や別書名等
	Title.Alternative.Transcription	別書名ヨミ	角書や別書名等のヨミ
	Title.Alternative.Union	統一書名	『国書総目録』の書名
	Title.Alternative.Union.Transcription	統一書名ヨミ	『国書総目録』の書名のヨミ
Creator	Creator	著者	
	Creator.Transcription	著者ヨミ	
	Creator.Alternative	著者名別表記	通行の名称
	Creator.Alternative.Transcription	著者名別表記ヨミ	通行の名称のヨミ
Subject	Subject.Union	『国書総目録』分類	
	Subject.NDC	日本十進分類法	
	Subject.NDLC	国立国会図書館分類表	
	Subject.BSH	基本件名標目	
	Subject.NDLSH	国立国会図書館件名標目表	
Description	Description	特記事項	
Publisher	Publisher	出版者	
Contributor	Contributor	寄与者	
	Contributor.Transcription	寄与者ヨミ	
Date	Date.Issued	出版年	
	Date.Available	成立年	著者自筆本の書写年 / 著者の自序・跋・奥書年など出版年として確定できない年を記述, 和暦および西暦
	Date.Created	データ登録日	
	Date.Modified	データ更新日	
Type	Type.Collection	コレクション名	コンテンツが属するコレクション名
	Type.Material	貴重資料種別	和古書 / 漢籍 / 古文書 などコンテンツの原資料の資料種別
	Type.NII	NIIメタデータ主題語彙集	
Format	Format.MT	フォーマット	Internet Media Typeで規定されるファイル形式
Identifier	Identifier.URI	資源識別子 URI	アイテム表示画面へのリンク
	Identifier.ContentsURL	電子コンテンツリンク	コンテンツ本体への URLリンク
Source	Source.LocalID	ローカル書誌リンク	ローカル書誌の詳細画面へのリンク
	Source.Type	刊写の別	
	Source.Volume	巻冊次	
	Source.physics	寸法	
	Source.Note	注記	
Language	Language.ISO639-2	言語	
Relation	Relation.IsPartOf	上位階層	叢書名
	Relation.HasPart	下位階層	叢書の各細目の書名
	Relation.Collection	コレクションリンク	コレクションの Webページへのリンク
Rights	Rights	権利管理	コンテンツの利用に関する権利規定

注（最新アクセス日：2008/11/29）

- 1) Dublin Core Metadata Element Set, Version 1.1 (<http://dublincore.org/documents/dces/>)
- 2) 国内の機関リポジトリについては NII のホームページ上で一覧を公開している
「機関リポジリ一覧」(<http://www.nii.ac.jp/irp/list/>)
- 3) メタデータフォーマット (junii2) 各データ要素の入力内容一覧
(http://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/pdf/junii2_elements_guide_ver2.pdf)
- 4) 「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述要素 (DC-NDL)」(2007年5月)
(http://www.ndl.go.jp/jp/standards/dcndl/dc-ndl_2007_5ver.pdf)
- 5) 例えば JuNii2 フォーマットの NII 主題語彙集で必須項目として規定されるコンテンツの種別は、
「Journal Article」など研究成果に関する分類のみで、貴重資料を当てはめるには「Others」(その他)
を選択することになる。
- 6) 「和漢古書に関する取扱い及び解説」(2003.6.12)
(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/wakan_toriatsukai.pdf)
「コーディングマニュアル (和漢古書に関する抜粋集)」(2003.6.12)
(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/wakan_cm.pdf)
- 7) 『国書総目録』の分類の詳細については、国文学研究資料館ホームページ上の「マイクロ/デジタル
資料・和古書所蔵目録、利用のしかた - 分類語一覧」で確認できる。
(<http://base1.nijl.ac.jp/~micro/howto.html#keylist>)
- 8) 「NII メタデータ主題語彙集 (資源タイプ)」
(http://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/pdf/type_NII.pdf)

参考資料

- 『国書総目録 (補訂版)』全8巻 + 著者名索引、岩波書店、1989-91
- 橋口侯之介著『和本入門：千年生きる書物の世界』、平凡社、2005
- 氣谷陽子、門松ゆかり、徳永智子、樋浦真弓「和古書及び漢籍の NACSIS-CAT への入力における問題点：
筑波大学附属図書館の現状」大学図書館研究、No.56、P.1-11 (1999.9)
- 高橋,輝「貴重資料と機関リポジトリ」『琉球大学学術リポジトリ公開記念講演会発表抄録集』p.39 -48
(<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/2647>)
- 山崎博樹「資料のデジタル化と図書館」、大串夏身編著『最新の技術と図書館サービス』、青弓社、2007

(きごし みち 山口大学図書館)
2008年6月3日受理)